



(写真提供：下妻市観光協会、撮影地：下妻市下田「小貝川ふれあい公園」隣接地)

今月の1枚

小貝川の菜の花と筑波山

栃木県那須烏山市曲畑そりはたの小貝ヶ池(標高140m)を水源として、ほぼ南北に流下し利根川に合流する幹線流路延長約112km、2県23市町にまたがる流域面積約1,043km²の一級河川である小貝川。

山地と平地がおりなす豊かな自然から、多種・多様な動植物の生息・生育環境を形成している。

その流域の約85%は平地であり、河川の勾配が緩いことや無堤部が残っていたことから、昭和に入ってから幾度となく氾濫を繰り返し、地元では「魔の川」と呼ばれていたこともあった。

1986(昭和61)年8月の台風10号による記録的な集中豪雨(24時間雨量300mm)で生じた大洪水で荒れていた下妻市内の河川敷を、1988(昭和63)年から国土交通省と下妻市が協力して整備をはじめた。

街づくりと一体になった水辺空間を形成し、豊かな自然を保護しつつ流域の人々の郷土と河川への愛着が一層深まること、人と自然がふれあうことのできるやすらぎの場を提供することを目的として、1994(平成6)年秋、小貝川右岸河川敷約28haに「小貝川ふれあい公園」を開園し、現在は下妻市が管理している。

公園内には、国蝶オオムラサキをモチーフにしたネイチャーセンターはじめ、自然観察ゾーン、スポーツゾーン、フラワーゾーンが設けられている。

桜が咲き始める頃の菜の花に始まり、5月には約3.2haの広大な花畑に約200万本のポピーやキンセンカが色鮮やかに咲き誇り、7月には公園に生息する国蝶オオムラサキの優雅な舞に魅了される。

9月にはコスモスが花畑を優しく彩り、冬には筑波山をはじめ白化粧した日光連山や富士山を眺望できる。

パークゴルフ場、サッカー場やソフトボール球場が整備され、こども広場など子供向け遊具類も充実しており、老若男女を問わず1年を通じて豊かな四季を体感できることから憩いの場として人気が高く、多くの人々に親しまれている。



◆つくばエクスプレス「つくば駅」より、約21km・車で約35分
関東鉄道常総線「下妻駅」より、約5km・車で約10分
常磐自動車道「土浦北IC」より約23km・車で約35分
北関東自動車道「桜川筑西IC」より約25km・車で約40分